

連載

ホームページで情報発信

M
H
A
O
K
M
E
N
G
P
A
G
E



画像ファイルの用意

WWWページに画像を表示するには、HTMLファイルとは別に、WWWページ内に配置する画像のファイルを用意します。この画像ファイルは、GIF(Graphics Interchange Formatの略。ジフと発音)という形式を使います。

Photoshopなどのグラフィックソフトでは、画像データを保存する際にGIF(CompuServe GIF)形式を選んで保存します。また、フリーウェアやシェアウェアで、BMP(ビットマップ形式)やPICT(Macintosh用の標準画像形式)などからGIFに変換するソフトも多数存在します。

NetscapeなどではGIFのほかにJPEG形式のファイルも利用できます。GIFやJPEGの詳しい説明は次回行うつもりですが、とりあえずグラフィックソフトなどでGIF形式の画像を作成して、ブラウザに表示することになります。

 タグ

画像ファイルを用意したら、次にHTMLファイルの中で画像を表示するための指定をしなければなりません(図1)。

画像を表示したい場所で、タグによってファイルを指定します。

```
<IMG SRC="sample.gif">
```

IMGはimage、SRCはsourceの略です。SRCオプションで、元となる画像ファイルを指定します。上記の例の場合、これが書かれているHTMLファイルと同じディレクトリ(フォルダ)内にsample.gifというGIFの画像フ

川添 歩(かわぞえあゆむ)

アクセス株式会社 <http://www.axes.co.jp/>

第3回 ホームページに絵を入れよう

ホームページに絵や写真などの画像を貼り込むと、見た目も華やかで、より個性的なページを作ることができます。

また、画像でしか表現できない情報というものもあります。

今回は、画像を表示するための手順とHTMLタグについて解説しましょう。

clock.gif



図1 : clock.html
GIFファイルとタグを使ったHTMLを用意し、WWWブラウザで表示した状態。
タグの次の行にある
に注意。これがないと文字が画像の横にきてしまう

```
<HTML>
<HEAD>
<TITLE></TITLE>
</HEAD>
<BODY>
<H2>My Favorite Clock</H2>
<IMG SRC="clock.gif" WIDTH=126 HEIGHT=126
ALT="Clock">
<BR>
とてもシンプルなデザインの目覚まし時計で、気に入っています。
<BR>
イタリアっぽいのですが、日本製なのです。
</BODY>
</HTML>
```

ファイルが置かれていることになります。

異なるディレクトリにある画像ファイルを使用する際の書式は、リンクの仕方を説明するときに詳しく行いたいと思います。まだこのあたりがよくわからない方は、とりあえずHTMLファイルと、そこに表示する画像ファイルは、同じディレクトリ内に配置するようにしてください。

ALT オプション

図1のHTMLで画像は表示されますが、タグを使う際のルールとして、「ALT オプション」は必ず入れるようにしてください。

ALTはalternative(代替)の略です。回線が混んでいるなど何らかの原因で、ホストコンピュータから画像ファイルがちゃんと受け取れなかった場合や、画像を表示する機能のないWWWブラウザでは、ALTが書かれていると画像がある位置にALTで指定した文字列が表示されます。画像がたとえ表示されなくても、その画像が何の画像であるのかをユーザーは知ることができます(図2、3)。



図2 : ALT指定のオプションがない場合、画像が何かの理由で読み込めないと、レイアウトイメージがまったく異なってしまうとともに、どんな画像が入っているのかが見る人にはわからない



図3 : ALTが入っていれば画像の内容を文字で説明することができる



図4：画像処理ソフトに表示されたピクセル数でサイズを指定する

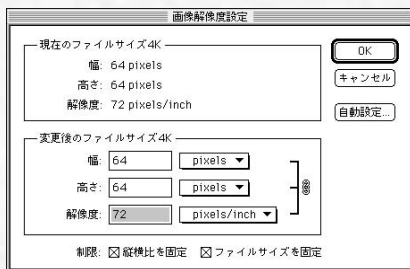
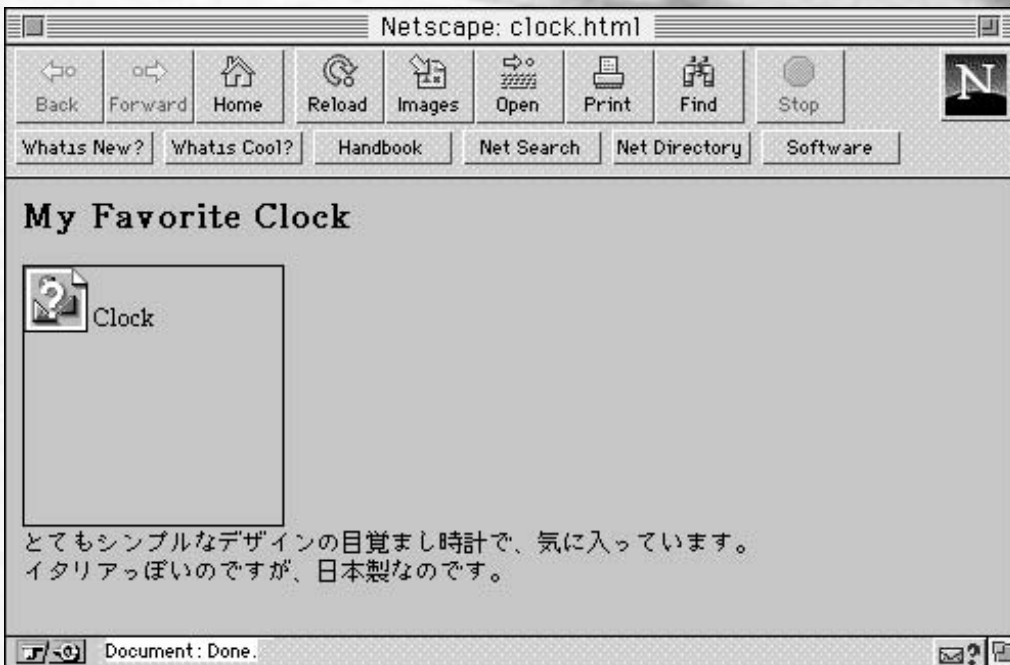


図5：サイズ指定も入っていれば、画像が得られなくてもその大きさはわかる



サイズ指定オプション

```
<IMG SRC="sample.gif" WIDTH=200  
HEIGHT=128>
```

これは画像のサイズを指定するものです。オリジナルの画像の大きさに関わらず、WWWブラウザが画像をこのサイズに合わせて拡大または縮小して表示してくれます。サイズは幅(WIDTH)と高さ(HEIGHT)をピクセル数で指定します。これはHTML 3.0の仕様ですが、Netscapeなどで利用できます。

画像カタログのようなページで見本の小さい画像(サムネールといいます)を表示したい場合に、このタグを使えば小さい画像ファイルを別に用意しなくとも、オリジナルの画像を縮小表示すればよいので便利なのですが、実際には、縮小する指定はお勧めできません。それは、表示自体は小さくなるのですが、実際に転送されてくるのは、サイズの大きいオリジナルの画像になるからです。画像の大きさのわりには表示に時間がかかることになってしまいます。サムネールが必要な場合は、元

の画像からグラフィックソフトで縮小したものを別に作ったほうがよいでしょう。

逆に、このタグでオリジナルの画像を拡大して表示する場合は、大きさのわりに小さいサイズの画像で済みますから、画像が荒れることを承知の上でならば使っても問題ありません。

拡大縮小など、そう頻繁に利用することはありませんから、あまり使わないオプションのように思えますが、このオプションはぜひ入れておいてほしいのです。オリジナルのサイズのまま表示する場合でも、そのオリジナルのサイズを指定してください。

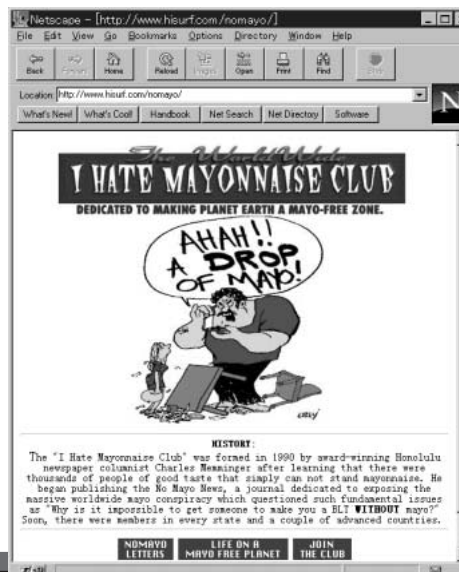
これには2つの理由があります。1つは、何らかの原因で画像の転送がうまくいかなかった場合でも、サイズの指定があれば画像の大きさの枠だけは表示されるので、レイアウトがくずれないということ(図4、5)。もう1つは、WWWページで表示する際にレイアウトがすぐに行われて、テキストの表示が速くなるということ。画像を含んだページをブラウ

ザーが表示する場合、画像より後ろにあるテキストは、画像ファイルを読みこいて、そのサイズがわかるまで表示を待たされます。しかしサイズの指定をHTMLの中でしてあれば、ブラウザーはそのサイズの大きさを確保し、後ろのテキストをすばやく表示することができるのです。画像の転送・表示には時間がかかりますから、読む側にとっては画像が表示される前にテキストが表示されれば、それを読みながら画像表示を待つことができるというわけです。

図6：ホームページの定番（？） ペット自慢



図7：「マヨネーズ大嫌いクラブ」のページ



COLUMN

「嫌い」も自己表現

個人的なホームページを維持していくのに必要なものは、それを作る本人の情熱以外の何物でもなし。

自分はこれが好きだ、好きで好きでしょうがないという対象がある人ほど、内容が濃く、他人が見ても面白いページを作ることができる。

一般的に情熱をかけやすい対象というものがあろうので、たとえば自分のネコ自慢をホームページでしている人は又自慢の数より多いように思うし、世界中にこれほどオタクがいたかと思えるほど、日本のアニメやコミックについて語っているページは多い。

したがって、自分のお気に入りのものをページで紹介したいと思っても、それよりすごい内容のページがほかにあるために、今ひとつ気乗りがしないということはよくある。

だが実は、誰の中にもたいてい「好き」というよりもさらに強い感情がある。そう、「嫌い」という感情だ。

何かを、あるいは誰かを好きであるということよりも、嫌いであるということのほうがより持続性があり、より強い感情であるように思う。だから「私の嫌いなもの」をリストアップすることは、「私のお気に入り」をリストアップするのと同様に、あるいはそれ以上に、その人をより鮮明に表現する結果となるだろう。

そしてリストアップしたら、きっとその理由を詳細に書きたくなるはずだ。

一般に、嫌いであることの理由は、好きであることの理由よりも情報量が多いのではないだろうか。考えてみると、好きであるということの表明には、あまり多くの言葉を必要としないのだ。

たとえば、

「私、ケビン・コスナーって大好き」

と聞けば「ふーん、そうなんだ、あるいは「あ、俺も好き。いいよねー」「げっ。俺あいつ嫌い」というふうに、好きである理由をことさら説明することは少ない。一方、

「私、ケビン・コスナーって大嫌い」

と聞いた場合は、「えっ、俺は好きだけど、何で?」「うんうん、俺も嫌い。あいつってさー……」というふうに、どちらにしても嫌いである理由を説明することになりがちだ。

嫌いなことに対しては、それが論理的であれ、感情的であれ、その人なりの説明があるし、他人もそれを聞きたがる。自分と異なる意見に興味があるからだ。ということは、読み手の反応も引き出しやすい。

もちろん、根拠のない悪口や、誰かの感情を傷つけることだけを目的としたものは作るべきではない。

そういうものではなく、プラス指向の、あなたの表現の手法としての「私の嫌いなもの」ページは、あなたという人間を印象深く他人へ伝えることになるだろう。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp